25　海野勝珉《浪に鷲図花瓶》一対

明治四十二年（一九〇九）
銀・金・四分一・銅・赤銅／高彫・象嵌・線彫
各D一八・〇、H三八・〇

荒海のなかの岩上に降り立つ姿と海上を悠然と飛ぶ姿の、動静二態の鷲を高彫して、数種類の色金を使い羽や嘴、足などを色を分けて象嵌している。特に鷲の羽は細かな彫刻と象嵌で質感や色が表され、写実への強い意識を見ることができる。しかしその一方で、淀みのない曲線で彫り表された上下にうねる波や、四分一で象嵌した岩に打ち寄せる波頭の形状など、伝統的な日本画風の描写を踏襲している部分もある。

東京藝術大学が所蔵する「海野家資料」のなかに、本作の下図と見られる資料が存在する。下図と作品が両方とも現存していることで、図案が彫金作品としてどのように結実したのかを確認することができ、海野の場合には極めて稀な例であると言える。そうした比較の上で明らかとなる海野の作品の特徴は、下図をもとに製作するにしても線彫でただ図様をなぞるだけに終始せず、多くの色金を用いて色彩を再現したり、高彫や象嵌により立体化して、描かれたものの物質性までも表現している点である。

本作は明治四十二年七月に日本金工協会が開催した第六回競技会で金牌を受賞し、宮内省に買い上げられた。底部には透かしを入れた高台が付き、底面には海野の銘が切られるとともに、出品者を示す「天賞堂」の刻印と、花瓶を鍛造した藤本萬作（一八六〇～一九三四）の「長養齋」の銘がある。

参考図版―本作下図(「海野家資料」より、東京藝術大学所蔵)

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 41

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十八年九月二十三日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections